

17年前、私は福島県いわき市へ出張した。大手通信機メーカーの福島工場から、納入部品的大幅増産の要請があったためだ。私は現地に新工場建設を検討した。

工場の立地条件は最も重要である。周辺に十分な人材がいるかも大切な要素だった。いわき市は小名浜漁港があり、温泉やゴルフ場も多い。望む条件に合っていた。

しかし、ふと「ちょっと待て」と思った。大学4年生だった1960年に発生したチリ地震津波の記憶がよみがえった。地球の裏側で起きた地震



東日本大震災と長崎、沖縄工場

大垣精工会長 上田勝弘

の津波がハワイで61人の犠牲者を出し、日本にも押し寄せた。特に三陸リアス海岸では90人、全国で139人が亡くなる大惨事となった。

三陸沖は地震銀座と呼ばれ、年間3千回ほどの微震がある。超精密加工には不向きと即断し、工場を諦めて長崎へ向かった。長崎ではいくつも工場団地を見学した。地震や台風、水害の歴史も詳しく聞き取った。工場用地はわずか30分で決定した。すぐに建設準備に入り、長崎県の協力も得て2010年に完成した。翌年には沖縄工場開設

に取り組んだ。県の賃貸工場を利用したため、建物を作る必要がなく、設備を導入するだけでよかった。目的は災害リスクを分散し、事業継続性を高めることだった。

開設祝賀パーティーは3月11日、那覇市の日航ホテルで開いた。そして午後2時46分、東日本大震災が発生した。午後6時開宴予定の会場はどよめいたが、知事も出席していたため、予定通り開き、無事に終了した。独断専行で大災害を免れた。私はナマズに近い感覚を持っているのではないかと思っている。